

このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんからの感想画を募集しています。紹介する民話は、子どもたちに、ふるさとの伝説や昔話を教え、少しでも遠い祖先の心や、郷里の土地のぬくもりを感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

むかしむかし、小船に大崎城があったころのお話です。

ある日、小船の庄屋さんは、村ごうしのより合ひに、お屋から出かけていまして、話し合ひが長くなつてしまひ、帰るころには、もうたつぷり日がくれていました。月が東の空に上つています。

「ああ、おそろなつた。家のものの心配しつゝいぢやうせえ、早く帰らうな。」

と、ひとり言を言いながら、月の光を頼りに、木のしげつた山道を、急ぎ足で帰つていきます。

庄屋さんの家が見えてくるころになると、なま温かい風がふいて来て、月も雲の中にかくれてしまいました。なんだか気味が悪くてたまらない様子でしたが、庄屋さんは急いでいるので、そんなことには全然気がつきません。

松浦の民話⑫ 庄屋の忠犬

家のほんの近くに來ると、庄屋さんがとてもかわいがつてゐる犬の、ほえる声が聞こえてきます。

「風から出かけて家におらんじやつたせん、さみしかつたつちやうな。おれが帰つてきて、うれしかつて言つてほえよるとほいね。」

庄屋さんは門前まで走つていつて、犬の頭をなでてやうつとしました。しかし、近よることができません。いつもと様子がちがひのです。うれしくてほえているのではなく、庄屋さんに向かつておびつてゐるようです。

庄屋さんは、
「なして、ほえよるとか。」

と、なだめようとします。しかし、ますます声を大きくしてほえます。それでも、庄屋さんは気を取り直して、
「まだ夕飯はもうとらんで、腹の減つたつとじやろ。」

などと考へながら、
「ほりや、より合ひで出た茶がしの残つるとはもろてきたせん、やるたひ。静かにせんか。」
と云つて、かしを投げてやりました。

いつものように、しつぽをふつて喜んで食へると思つてゐると、かしには目もくれず、気もくるわんばかりに吠えまくりです。今にも庄屋さんに飛び付いて、かみ殺そうとも思つてゐるようです。

いくら気のやせしい庄屋さんでも、今までかわいがつてきた犬に、こうほえられてはたまりません。いくらなだめてもほえるので、腹がたつてきました。

「おれたい。庄屋たい。このおれがわからんとか。」

と、大声でさげんでも、ほえ続けます。庄屋さんは、

「いへう言葉のわからん犬でも、今までかわいがつてきたおれば、忘れてしまつとは許せん。」

と言ひながら、刀に手をかけ、ぬぎ打ちさまに、犬の首をはね飛ばしてしまひました。

歯をかつとむき出しにした首は、庄屋さんの頭の上をぴゅつと飛びこえて、門前の高い木に飛び乗りました。今まで見たこともないすごい顔つきです。

思わずつられて上を見ました。
よく見ると、犬の首は、大蛇おびつの首にしつかり食ひこんでいます。その大蛇の大きいこと。人の大きさほどもある体を、木の幹にまき付けています。

ちよつと、庄屋さんをおそつと頭をもたげたところを、かみ付かれたのでした。犬の首からも、かみ付いた歯からも、赤い血がぼたぼたとしたつています。

おどろきのあまり、その様子を気がぬけたように見ていた庄屋さんは、はつとわれに返りました。

「あぎやん、気のくるつたことほえつたとは、大蛇がおればねらうつとつたとは、教えるためぢやつたたい。ああ、すまんことばした。許しておくれ。」

庄屋さんの手から、カタンと小さな音をたてて、刀がすべり落ちました。

月が雲間から顔を出し、さむざむとした光を、地上へなげかけていました。

その後、人々は主人のために、命まで落としてつくしてくれたこの犬に感しやして、そのなまぎだらを手あつくほつむり、ほつらを建てて、今宮神社と名付けました。

今でも、近くの十二、三げんの人々が集まつて、毎年十二月十六日を例祭日と定めて、欠かさずお祭りを行つています。お祭りのそなえものは、ご神体が犬であるため、米ではなく、ぬかをおそえしているそうです。
(御厨町小船)



中世の松浦 (28) 鷹島海底遺跡

鷹島海底遺跡の神崎港地区の発掘調査では、多くの陶磁器が出土しています。特に多いものに中国産の褐釉陶器壺・褐釉陶器四耳壺・青磁碗・白磁碗などがあります。これらの遺物は、蒙古襲来時の弘安の役(1281年)で閏7月1日の暴風雨で沈没した元軍のうち江南軍の戦艦に積み込まれていた日用品で、供膳具として使用されていたものと思われれます。碗では品質の良いものとして河南省鈞窯の碗と浙江省龍泉窯系の青磁碗がありますが、大半が質の悪い粗雑な製品の碗です。このことは船団を構成する指揮官や将校クラスと兵卒との使用する供膳具の違いが反映されているものと思われれます。

また、これに反して元軍のうち東路軍の戦艦に積み込まれていた日用品の供膳具としての碗の出土は非常に少ない状況です。中国・高麗の文献にはこの戦争で帰還できなかった人々の数が記載されていますが、江南軍の兵の帰還が少なかったことは船の構造の違いにより、ほとんどが沈没難破したものだと思われれます。写真は数少ない東路軍に伴うものではないかと考えられる高麗青磁碗で、内面には蓮花文の茎のみ黒土でほかは白土で象嵌が施されている資料です。



▲鷹島歴史民俗資料館に展示中

松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「おめかし大岳様」のイラストに、2通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



【最優秀賞】

前田サツキさん (福島・日の浦、70)
「きれいに着飾った大岳山の神様と、ほかの山と比べて雨があまり降らなくなった大岳山が描かれていて、お話の内容がよく分かるイラストですね」 (カ)



【優秀賞】

新見 遥ちゃん (志佐・上高野、7)
「すごくきれいな服を着ている大岳山の神様ですね。黄色い服がよく似合っていますね」 (カ)

■あなたの力作を募集!

— 民話の感想画募集 —

右の民話を読んで感じた情景をイラストにして、必要事項を記入の上、左記まで持参、郵送またはメールにて送付してください。応募いただいたイラストは審査し、上位のものを次の市報で紹介いたします。

【応募資格】 住所、年齢、性別など何も問いません。どなたでも応募できます。
【イラストの規格】 はがきまたはA4サイズ以内の紙に絵の具やクレパスなどで書いたカラーのもの(色鉛筆の場合は濃く塗ってください)。

【必要事項】 住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、職業(学校名) ※掲載する場合、ペンネームを希望する人は、ペンネームもご記入ください。
※はがきで応募される人は、必要事項を表の下部に記載してください。

なお、いただいた個人情報(民話コーナー以外には使用しません)。
【応募締切】 3月10日(木) 必着

【応募・問合せ先】

〒859-4598 松浦市志佐町里免365番地

松浦市まちづくり推進課 秘書広報係

☎0956-72-1111 Eメール hisyo@city.matsura.jp

※福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。